

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4075800336		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム えださか (1階・2階)		
所在地	〒820-0203 福岡県嘉麻市平1492番地1 Tel.0948-42-3020		
自己評価作成日	令和03年05月30日	評価結果確定日	令和03年07月05日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和03年06月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

車道から離れ木々に囲まれた自然豊かな場所に設立されており、四季折々の花々・鳥や虫の声で季節を感じられます。隣接しているアパートには系列会社の職員が住んでおり、非常災害時などには協力が得られるので大変心強いです。グループホームえださかは1F9名・2F9名の2ユニットで、各居室は日当たりが良くとても気持ちが良い所です。裏の畑では野菜作りをしており、畑仕事が好きの方は職員と一緒に楽しんでいます。えださかでスイカの収穫や芋掘りができるのも、入居者様は大変喜ばれます。医療面では、内科医師往診、24時間対応の訪問看護、歯科医師往診と連携がとれているため、状態変化時は他受診や入退院のサポートも行います。ホームでの看取り体制も整えており、終の棲家として安心して暮らして頂けます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

嘉麻市郊外の自然豊かな広い敷地の中に、2003年11月に開設された、2階建て定員18名のグループホーム「えださか」がある。四季折々の花や鳥の声で季節を体感し、広い畑では野菜が育ち、「利用者第一」の理念の下、明るく優しい職員が利用者の自由であるがままの暮らしを支えている。畑で収穫した野菜を使って職員が作る美味しい食事や工夫を凝らした行食事、誕生会の手作りケーキ等、「食」に力を入れて取り組み、利用者の大きな楽しみとなっている。ホーム提携医と24時間対応の訪問看護師と連携し、安心の医療体制が整い看取りも行っている。職員の処遇改善と2名の管理者を中心に働きやすい環境作りに取り組み、長く勤める職員が多く職員は定着している。我が家に居るようなほっこりした心地よさの中、利用者の入居年数も長く、利用者、家族、ホームが深い信頼で結ばれている、グループホーム「えださか」である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して過ごして頂けるよう「このホームで生活して良かった」「長生きしてよかった」と思ってもらえるよう、入居者様へ尊敬の念を忘れず、いつも平常心で思いやる気持ちを大切に、皆様のお世話をさせて頂いております。	運営理念を見やすい場所に掲げ、ミーティング時に職員が唱和して理念の共有に努めている。どんなに忙しい時でも心に少しのゆとりを持ち、人を思う心と人生の先輩への尊敬の念を忘れず、いつでも平常心で利用者に寄り添うことを念頭に、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスのため、近隣保育園児との行事や中学生の職場体験、公民館での盆踊りも中止となり、交流する機会がありませんでした。	公民館の行事や盆踊り、オレンジサロンへの参加や、中学生の職場体験の受け入れ、保育園児との交流等、地域との交流を大切に取り組んできたが、現在は新型コロナ感染症対策の為、自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスがなければ、系列の有料老人ホームで開催される行事(七夕や敬老交流会・秋祭り)に参加していましたが中止となり、緊急事態宣言が解除している間は、お散歩をしましたが、残念ながら地域の方とお話する機会がありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催予定でしたが、緊急事態宣言中は中止しました。開催時は入居者ご家族様や市職員の方、地域の民生委員、訪問歯科医師、訪問看護師が参加されています。生活状況の報告を行い意見交換をすることで、サービスの向上を行っております。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し(緊急事態宣言中は中止)、現状報告及び行事報告、着取りの報告等を行っている。参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、出された意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業所の連絡会がオンラインミーティングになりましたが、参加し情報交換を行っています。嘉麻市役所からmailが届くので、確認しています。	地域密着型サービス事業所連絡会(コロナ禍の為、オンラインミーティング)に参加し、情報交換を行う等、協力関係を築いている。また、疑問点があれば行政担当窓口にお問い合わせ、困難事例について相談する等、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催しています。マニュアルは全職員が閲覧し理解しています。離脱された方がおられ玄関ドアにアラームを設置しましたが解除に向けて検討中です。	職員会議の中で、2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、内容を運営推進会議で報告している。身体拘束廃止に関するマニュアルを回覧して共通理解に努め、一つひとつの事例について細かく話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設にて身体拘束や虐待にあたるのではないと思われる事案が発生した時は、話し合いの場を設け代替わりケアを検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会を通じて後見人制度を利用されている方が2名いらっしゃるの、権利擁護の大切さを理解しています。入居者様のご家族も高齢化していますので、これから増えていくことが考えられます。	現在、2名の方が成年後見制度を利用している為、関係機関とのやり取りを通じて理解を深めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には説明を行い、関係機関と協力しながら制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・運営規定・重要事項説明書を基に利用者様やご家族様が十分に理解され、納得して頂けるまで説明を行っております。不安や心配事・疑問があればお聞きし、納得されるまで丁寧にご説明させて頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より心配事や不安・要望などを伝えやすい対等な関係を築き、要望には柔軟に対応しております。又運営推進会議を2ヶ月に1回設けており意見交換を行い、運営に反映させるよう努めております。	2ヶ月毎の運営推進会議を家族会議として位置づけて参加を呼び掛け、意見や要望を聴いている。コロナ禍で面会も制限があるため、こまめに家族に電話をかけて近況報告を行い、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、出された意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より意見を提案しやすい関係性作りを努めています。2ヶ月に1回の職員会議に施設長が出席しており、意見交換を行い反映できるよう努めています。	2ヶ月毎に職員会議を研修会を兼ねて開催し、1階と2階に分かれてカンファレンスも実施している。風通しの良い職場環境であるため、職員からは活発に意見や要望が出され、これらの意見はできることから速やかにホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行い給与や賞与に反映しています。個々の家庭事情・体調・休日の希望を考慮し、働きやすい環境整備に努めています。産休・育休が取得できるので、若い世代の方が安心して就業できる環境作りを努めています。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、年齢や性別の制限を設けず、本人のやる気を重視しています。当施設の職員についても年齢制限がなく、働く意欲があればいつでも働くことができるよう配慮された職場です。	職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別の制限を設けず、人柄、やる気を重視している。60歳で一旦定年となるが、その後は再雇用として年齢制限なく働き続けることが出来ている。レクリエーションや創作、食事作り等、それぞれの得意なことを活かして、助け合いながら生き生きと働くことが出来るよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	当施設の運営理念である「人を思う心と人生の先輩の皆様への尊敬の念」を忘れないよう、職員会議の際に唱和しています。認知症ケアハンドブックなどがあり、認知症を理解し尊厳のある生活が送れるよう努めております。	運営理念にある「人を思う心」と「人生の先輩への尊敬の念を忘れず」の言葉を常に意識している。研修を通して認知症に対する理解を深めながら、利用者一人ひとりを尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	普段しているケアの再認識や新しい知識の取得への支援をしています。職員一人ひとりが得意・不得意があるので、意見交換を行いながら、職員のレベルが向上できるように努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会(オンライン)に参加しています。他施設の管理者・介護支援専門員と情報交換を行い、サービス向上の取り組みをしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は不安が多いので、職員より声掛けを行い、ご本人が困っていることや不安・要望を傾聴しています。ご本人の言動や状態観察を行い、その都度対応することで信頼関係が築けるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の中には、施設入所を引け目に感じている方がいらっしゃいます。思いを傾聴することで、不安や要望を伝えて頂けるよう、気軽に何でも話せる関係作りにも努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様と面談した際に、身体状況や様子観察をさせていただきます。お話を伺い必要な支援を見極めています。ご家族様にもお話を伺い、必要な支援の中でも優先順位を決め、段階的に今後の支援に繋げていけるように努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の年齢が、ご本人様の子供や孫に近いこともあり、一人では困難なことや大変なことがあれば、お互いに助け合う三世代の家族のような関係性が築けていると思います。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が心身ともに健康で過ごされるためには、ご家族様の協力が必要不可欠です。入居者様に変化がみられた場合、ご家族様に報告・相談を行っています。ご本人様とご家族様の関係性を大切にし、必要ならば病院受診の段取り・付き添いを行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスにより、ご本人様が知人や友人と会うことができないので、電話やお手紙のやり取りを通じて大切な関係が途切れないよう支援をしています。	コロナ禍以前は、地域の方や利用者の友人、知人の面会も多く、ゆっくりと寛げる場所やお茶等を提供していたが、現在は面会も難しい状況である。電話の取り次ぎや手紙のやり取りを支援する等、今出来る事で馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士気が合う合わないがありますが、レクリエーションや行事を通じて「楽しさ」を共有することで、連帯感が生まれ自然と笑顔がみられています。円滑な関係が保てるように、職員は見守りや声掛けを行っております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新型コロナウイルスにより、お見舞いや葬儀の参列は出来ていませんが、退去後もご本人とご家族様の支えになればと思い連絡を取り合うことがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や行動から、ご本人様の思いをくみ取る努力をしています。ご本人様の意向や希望を叶えるため、ご家族様に協力して頂き、ご家族様の意向も取り入れるようにしています。意思疎通が困難な方の場合「自分だったらこうしてほしい・うれしい・してほしい」を基準に考えるようにしています。	長く勤める職員が多く、利用者の入居年数も長い事から、馴染みの関係の中で、利用者の思いや意向を聴き取り、出来る事から実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、家族と相談したり、職員間で利用者本位に検討し、その方の思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのお仕事や生活歴をなど、ご本人様やご家族様より聞き取り、把握できるよう努めています。入居されてから知ることもありますので、疑問に思ったらその都度情報収集を行っています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが、ご自分で出来ること・お手伝いが必要なこと・身体状況・過ごし方も違うため、バイタル・排泄チェック・個人記録を参考に現状の把握に努めています。その日の状態に合った過ごし方を考慮しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向をお聞きし、主治医・訪問看護師・歯科医師等に現状報告・相談・情報交換を行いアイデアがあれば反映し、現状に合った介護計画を作成しています。	利用者や家族の意見や要望、心配事等を担当職員が聴き取り、カンファレンスやモニタリング、毎日の業務の中で職員間で検討し、状態変化のない方は6ヶ月毎に、利用者本位の介護計画を作成している。また利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と相談しながら介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・ケアの実践・結果を個人記録に記入しています。気づきや変化がみられたら、職員間で話し合い対策を決めます。ケア実施の時間や結果を記録に残し情報共有することで、介護計画の見直しに活かすことができます。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望に対して、固定概念にとらわれないよう柔軟に対応するよう努めています。出来る限り、ご本人様・ご家族様に満足して頂けるよう努めております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員同行にて、地域のスーパーや衣料品店で楽しく買い物をされていました。店員さんと顔なじみになり共に支援して下っていましたが、新型コロナウイルス後は外出を控えられています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族様のご希望を伺い、ご希望に添える様かかりつけ医への受診支援を行っています。提携医の場合、週1回の往診又は通院することもあります。週1回の訪問看護があるため、安心して適切な医療が受けられるよう支援しています。	入居時に利用者や家族の希望を聞いて、主治医を決めている。現在、ほとんどの利用者がホーム提携医を主治医とし、週1回の往診を受けている。提携医と24時間対応の訪問看護師との連携で、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と介護職との連携が取れているため、入居者様の気付き・情報をお伝えしています。状態変化がみられた場合も来訪日以外は電話にて報告を行っています。訪問看護師とかかりつけ医との連携が取れているため、早期発見・早期治療に繋がるよう支援をしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	新型コロナウイルスの影響により病院も面会禁止のため、本人様にはお会いできませんが、入院時ご家族様と一緒に主治医からの病状説明をお聞きしています。入院後は、担当看護師やソーシャルワーカーさんと情報交換・相談を行い、早期に退院が出来るよう努めております。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前に本人様・ご家族様の意思を確認しています。ホームでの看取りを希望される方は、主治医と訪問看護師がホームで出来る医療行為を説明し、本人様・ご家族様が納得した上で同意を頂き、方針を決め共有しています。入居者様が穏やかな終末期を送れるよう主治医・訪問看護師・ご家族様と共に支援をしています。	重要事項説明書を基に、ホームで出来る支援について説明し、利用者や家族の希望を聞いている。利用者の重度化が進むと、家族と関係者で今後の方針について話し合い、利用者が終末期を安心して過ごせるよう、環境整備に取り組んでいる。提携医、訪問看護師と連携し、看取りの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置した際、講習を受けました。応急手当や初期対応についてはマニュアルを閲覧しており、普段より話し合い訓練をしています。何かあれば管理者に連絡し指示を仰ぐよう、徹底しています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定での避難訓練を行い通報装置や消火器の使い方・避難経路の再確認を行っています。災害時に備えて、飲料水や非常食・紙オムツ類の備蓄を行っており、隣のアパート住民との協力体制も築いています。	非常災害に備えた避難訓練を年2回、夜間想定で実施している。2階の利用者9人の避難方法を消防署と確認し、ベランダに一時避難して消防車の救助を待つ体制を整えている。隣接する系列会社の社宅の住民や地域の方の協力体制を確保し、災害時に備えて、飲料水やゼリー、ウエハース等食べやすい物や、紙オムツ、紙パンツ等の備蓄を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが、相手を思いやる声掛けをするよう努めています。羞恥心・プライバシーには十分に配慮し、入居者様一人ひとりの人格を尊重しております。	職員は、利用者の個性や生活習慣に配慮して、利用者一人ひとりの人格を尊重した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に説明し、情報が漏洩しないように取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段のさりげない会話から、ご本人の思いや希望が聴けることがあり、何でも言い合えるような関係が築けています。入居者様が自己決定できるように声掛けを行っています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日に合った食事・入浴・起床や消灯時間など臨機応変に対応しています。入居者様一人ひとりの状態を把握し希望にそった個別ケアを行っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんが2ヶ月に1回来訪され、自分の好みに合わせてカットして頂けるので皆様喜ばれます。新型コロナウイルスの影響により訪問できない時期を見込んで調整されています。白髪染めを希望される方は職員がお手伝いしています。衣類や日用品は、ご家族様が持参されたり、職員が買い物に行くこともあります。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を献立に取り入れることで季節を感じて頂いています。お誕生日会や季節の行事がない月は、手作りおやつやお好み焼き・たこ焼きパーティーを開催しています。入居者様と職員と一緒に準備や片付けをしながら会話ができ、楽しく食事をしています。	ホームの畑で、玉葱、じゃが芋等たくさんの野菜を作り、利用者と職員と一緒に収穫して、日々の料理に取り入れている。食材の買い物、料理の下拵え等を利用者と一緒に行い、職員が交代で作る美味しい料理を、利用者と職員が談笑しながら一緒に食べている。誕生会は、ケーキやちらし寿司でお祝いし、春の七草粥や節分の恵方巻等、季節に合わせて食べる事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりの食事や水分摂取量を把握しており、一緒に食事する中で、その日の体調がわかります。苦手な食材は別の食材にて対応し、肉・魚・野菜をバランス良く摂って頂けるよう努めています。毎食の食事量・水分量や様子を記録しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後と毎食後に歯磨きをして頂いています。ご自分で出来ない方は口腔内ウエットを使用し、職員が介助しています。義歯の方は夜間のみ洗浄剤につけ置き消毒を行っています。週1回の歯科往診サービスを利用しており、点検・治療も行って頂いています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導を行っています。PTトイレを使用される方は、羞恥心や居室内の環境整備に十分配慮しています。布パンツで失禁がみられる方には軽失禁用パンツへ変更していますが、トイレでの排泄を基本と考え支援を行っています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合った声掛けや誘導を行っている。オムツ使用の利用者にもポータブルトイレを使用する等、自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、日常的に下肢筋力を鍛えるリハビリに励み、トイレで排泄が出来るように取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事を提供し、水分量も気を付けています。ラジオ体操やリハビリ等で適度な運動ができていますが、便秘気味の方には、個別で廊下歩行や乳製品やポカリなどを提供しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は曜日ごとに週3回と決めています。病院受診や希望に合わせ、時間や曜日変更を柔軟に対応しています。個々のタイミングや体調に合った入浴方法で介助しています。	利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回を基本として入浴の支援を行っている。入浴は利用者職員が1対1で関わる事の出来る大切な時間と捉え、コミュニケーションに努めている。入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、声掛けを工夫する等して、気持ちよく入浴が出来るよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりが日中の休息・就寝時間が違うため個々の状態やペースに合わせています。季節に応じた衣類や寝具にも気を配っており、快適な生活空間を提供しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりの現病状や既往歴・アレルギーの有無・嚥下状態を把握し、主治医に相談しながら、内服薬の調整を行っています。誤薬防止のため、名前を読み上げながら手渡し介助・口に入れる介助を行っています。その際は飲み込み確認も行っております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動では、トランプや風船バレーなど楽しめますが、個々で好きなことや得意なこと(塗り絵や編み物やちぎり絵)をされており、居室や廊下に展示することでモチベーションアップに繋がっています。嗜好品はご家族様が持参されたり、職員が購入し居室にて食べられています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により外出は控えさせて頂いております。季節のお花が楽しめるよう外庭の散歩を取り入れ、個々によっては畑仕事をお手伝いして頂いており、気分転換が図れるよう支援しています。	コロナ禍以前は、利用者の希望を聞いて、個別の外出を計画して行う等していたが、現在は自粛している。そのような中でも天気の良い日は、広い敷地の中を散歩したり、畑の手入れや収穫を手伝ってもらう等、外気に触れて気分転換が出来るよう支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームではトラブルの原因になるため、本人持参は少額と決めています。移動パン屋さんやヤクルトさんが来られるので、購入する際は、本人様の預り金より本人様が支払いをされますが、お札を出されるので、小銭を使用するよう声掛け支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや書かれたハガキや手紙の投函を行い、大切な方との関係が良好に保てるよう支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花や置物・壁紙を飾っており、季節感を取り入れています。こまめに換気・消毒もしており、居心地よく過ごして頂けるよう支援しています。	社員寮を改築した建物内は、利用者職員の手作りの貼り絵の作品や手作りカレンダー、利用者の笑顔の写真を飾り、家庭的で明るい雰囲気のある共用空間である。建物内は、こまめな換気と行き届いた清掃により気持ちよく過ごせる環境を整えている。畑では野菜が育ち、室内には季節の花が生けられ、鳥のさえずりが聴こえ、季節を感じながらの居心地の良い暮らしを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	Dルームにて入居者様同士や職員と談笑される方や居室で一人ゆっくり過ごしたい方もいらっしゃいますので、自由に過ごして頂いています。自力歩行が困難な方は声掛けを行い好きな場所へ誘導しております。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(こたつ)や寝具、思い出の物を持参され、自宅のように過ごされています。仏壇を置かれている方もおられます。本人様が過ごしやすい空間作りを工夫しています。	利用者が長年使い慣れた箆笥等の家具や仏壇、家族の写真や絵等を持ち込んでもらい、季節の花を飾る等して、生活環境が急変しない配慮の中で、その方らしい部屋作りを心掛けています。畳敷きの上にマットや絨毯を敷いて、換気、清掃をこまめに行い、利用者が気持ち良く安心して過ごせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当ホーム内はバリアフリーで、各所に手摺を設置しています。独歩・歩行器・車椅子での移動がしやすいよう通路や廊下に障害物を置かないよう気を付けています。又、各場所が認識できるよう表示をしています。		